



## 業務の引継に画面録画ソフトを使う (IRSME15043)

平成 28 年 4 月 2 日 原田長州

業務の引継においてはマニュアルを作成することが多い。社内に Wiki などを設置し、誰でも更新ができるようにして情報共有をすることも可能だ。

伝達方法によって情報量は異なり、ポイントだけをおさえたメモであっても通用するケースや設定画面を静止画としてキャプチャーするなど手順を細かく保存しておかなければならないケースもある。メモだけで伝達する場合は、引継をする側とされる側に知識・経験などの差がない時に成り立つ。静止画として画面キャプチャーをする場合、10 枚程度であれば対応が可能であるが必要な枚数が多くなるとかなりの労力を必要とする。

業務を渡す側・受け取る側の負担が軽減できないかと考え、パソコンの画面を録画するソフトを利用した。今回は Bandicam<sup>1</sup>というソフトを選択して試した。

### ■ Bandicam について

このソフトはゲームなどを操作している画面を動画としてキャプチャーすることを主な目的として開発された。もちろん普段のパソコン操作を記録することも可能だ。Bandicam には有料版と無料版がある。無料版は最大キャプチャー時間が 10 分に制限される。さらにキャプチャーをした動画に製造元の企業名が表示される。今回の用途では最大 10 分という制限では目的を果たせないので有料版を購入した。価格は 1 ライセンス 4,000 円程度であった。

### ■ 実際に使ってみる

Bandicam のメニューには「ゲーム録画モード」と「画面記録モード」があり、「画面記録モード」を利用した。

今回はモニターの全画面のキャプチャーをしたかったため、横 1920 ピクセル縦 1080 ピクセルを記録するようにした。必要に応じてサイズを選択することができる。

1 秒間に何コマを記録するかをあらわすフレームレートは 10fps とした。テレビなど通常の映像は約 30fps である。データ容量を抑えるためにフレームレートを下げたが、フレームレートを 5fps 以下にするとコマ送りのように見えた。この場合、マウスがある地点から急に別の地点に移動しているように見えるため違和感があった。

<sup>1</sup> <http://www.bandicam.com/jp/>

平成 28 年 4 月 2 日

(IRSME15043) 業務の引継に画面録画ソフトを使う

連続して 4 時間 30 分間キャプチャーをしたところファイルサイズは 1.2GB であった。また、音声を録音することも可能だ。

マウスポインターはクリック時に円を表示させることやマウスポインターへ常に黄色の円をつけて表示することができる。

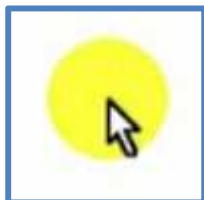


図 1 マウスカーソルの周りに黄色の円が表示される。動画でマウスカーソルがどこにあるか把握しやすい。

## ■ まとめ

今回は業務引継の作業に対して労力をかけず記録に残すことができないかを考え、動画記録ソフトを利用した。メリットとしては通常通りに作業をするだけでよいため、業務を渡す側が事前に用意するものが作業項目表やチェックリストだけで良かった点である（このようなチェックリストは自分自身で利用していることが多いため、あえて準備することも少ない）。

作業を動画で記録して再生してみると次のようなことに気づいた。録画し忘れを防ぐ目的で作業時間を通して画面の録画を行ったため、ファイル記録時間が 4 時間を超えた。4 時間の動画ファイルから必要箇所を探すには時間がかかる。記録後に作業項目ごとにファイルを分ける程度のカット編集は必要である。

静止画のキャプチャーを行う場合、一度画面キャプチャーをしだすと必要か不要かの判断をすることなく、とりあえずキャプチャーをしてしまうことが多い。結果、キャプチャー枚数が増えていく。枚数が増えることによってキャプチャー後の整理にも時間がかかるようになる。動画の画面キャプチャーは後から落ち着いた気持ちで必要な部分だけ静止画としてキャプチャーすることが可能なため効率的である。

マウスの動きがわかるように記録したが、動画を再生してみて大きなメリットは感じなかった。マウスの動きを残すことのメリットが得られる場面は、独特な操作方法を持つソフトが多い 3D モデリングや CAD などの分野だと感じた。また、画像編集ソフトなどのメニュー項目や設定項目などが多いソフトも動画で保存するメリットを感じた。

一種のドライブレコーダーのようにパソコンの画面を記録し振り返り可能な状態にすることで操作を自動化することができないか、そもそもシステム化することでこの作業を不要にできるのではないかと感じた。特にマウスポインターが上下左右に揺れているだけの無駄な時間が多かったことに気づくことができた。(了)